



入点
小治政
男色二條云

特別
~13
4181
5



持
13
4181
5

しきれの序

支那の西から久々の新にともなう里れそ

らりけりしる淮を馬肉ふかきづれ肘望あめと露か

きごとあづのたの神のりらびよる露の海く風の

着つ建とりあて。ひまののひと福びひわひひま

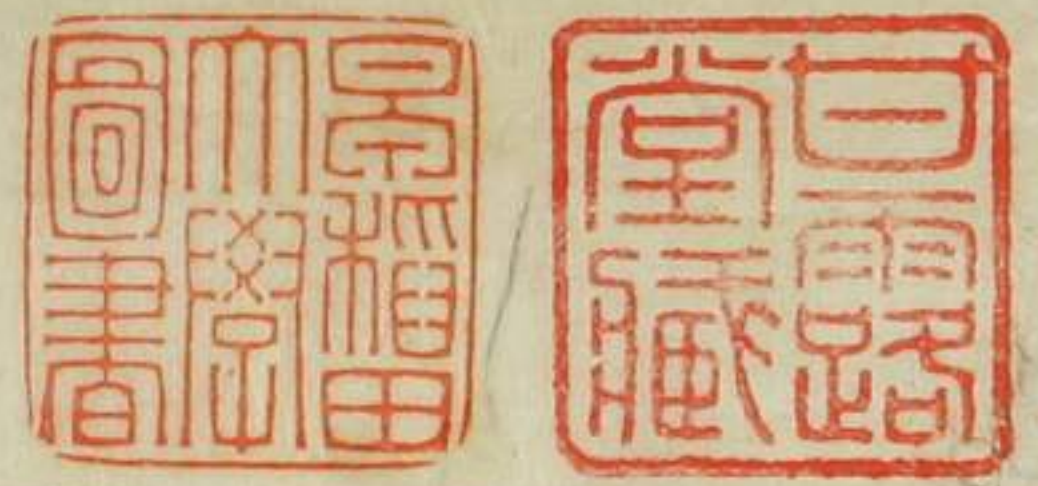
ゆもつと引年とある煤竹のうきまうとんまうとん

踏し。うし。漢と引て。屋。まの。年。も。老。な。れ。ね。ふ

がらまて。ね。み。人。旅。み。ら。ら。れ。た。ま。う。し。て。あ。ご。男。の。病。が

り。り。り。あ。く。け。り。あ。け。て。あ。ま。の。草。の。お。す。ぎ。ご。の

本。葉。衣。の。下。に。み。り。り。り。の。あ。あ。ご。の。ま。ま。と。り。び。と。



アヤ

問談主道之艶流達于二倫昏子嘔喻而退又二三鳥過而
後來于余之環堵頻請此記述而色欲之毋曾以不得
書記再三固辭焉乃童之倡望甚切也因茲卒不獲
遁而與陳化上鼠髯沈墨淵雜說綴草編述其槩
如左抑夫男色之道不待求尋倫之外曰義為朋友
寵為閨閣矣於五典之內存其二倫肆曰男色
二倫書竊罪小年不護此義豈謂人乎跡色亦不定
論者也

既承應式昭陽已麻鷓賓浹辰

くれけ月録
中城の天竺七代より主々のほぐり
主々のみ帯のよりよかき
天竺あそ嬉のほぐり
羅漢も嬉のの茶と服せり
天竺のそのまの
梓嬢の天竺のりけり
咬合の天竺のり
賣路児の漢朝のり
吳朝のあ鼠のるのり

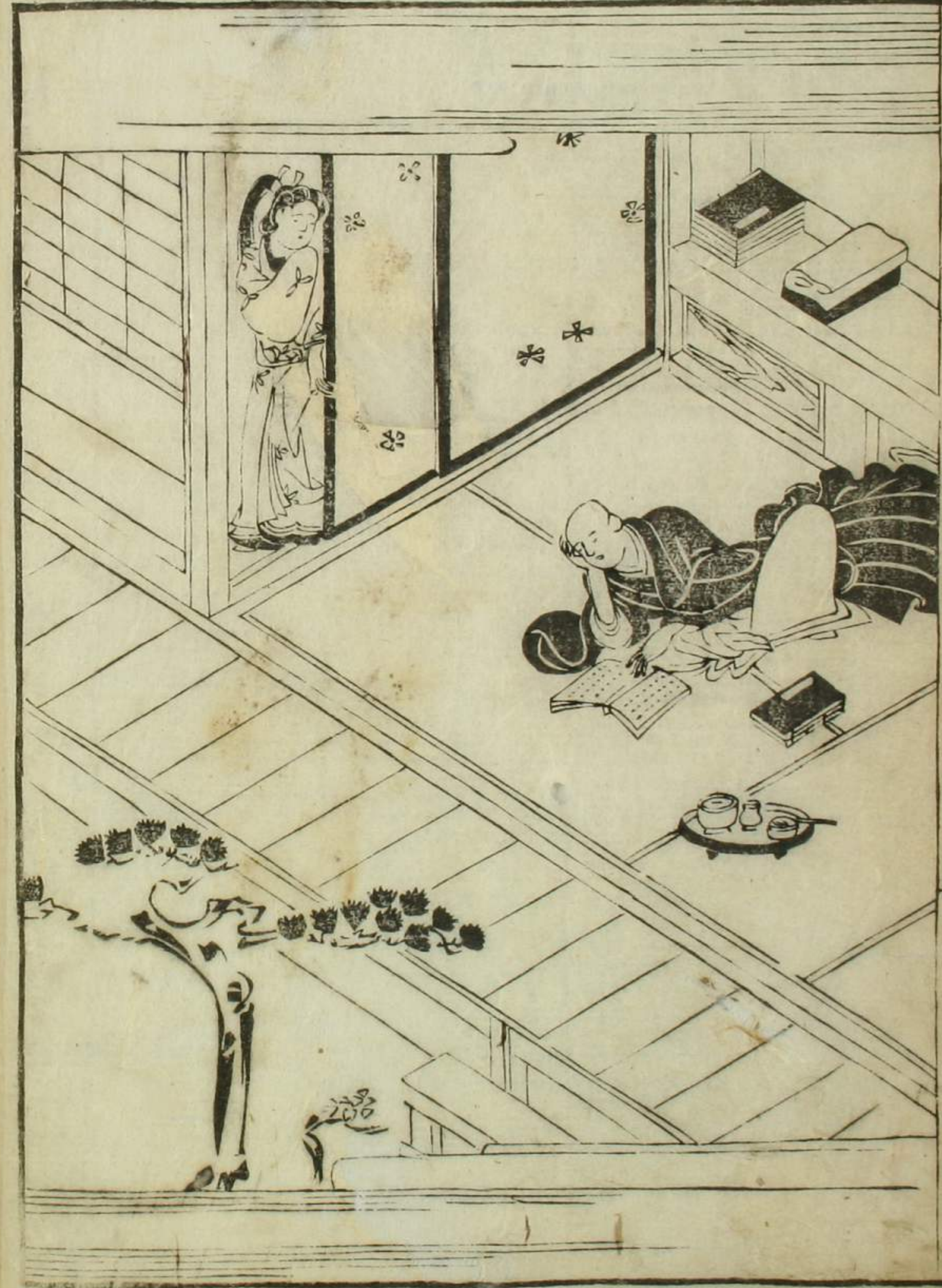
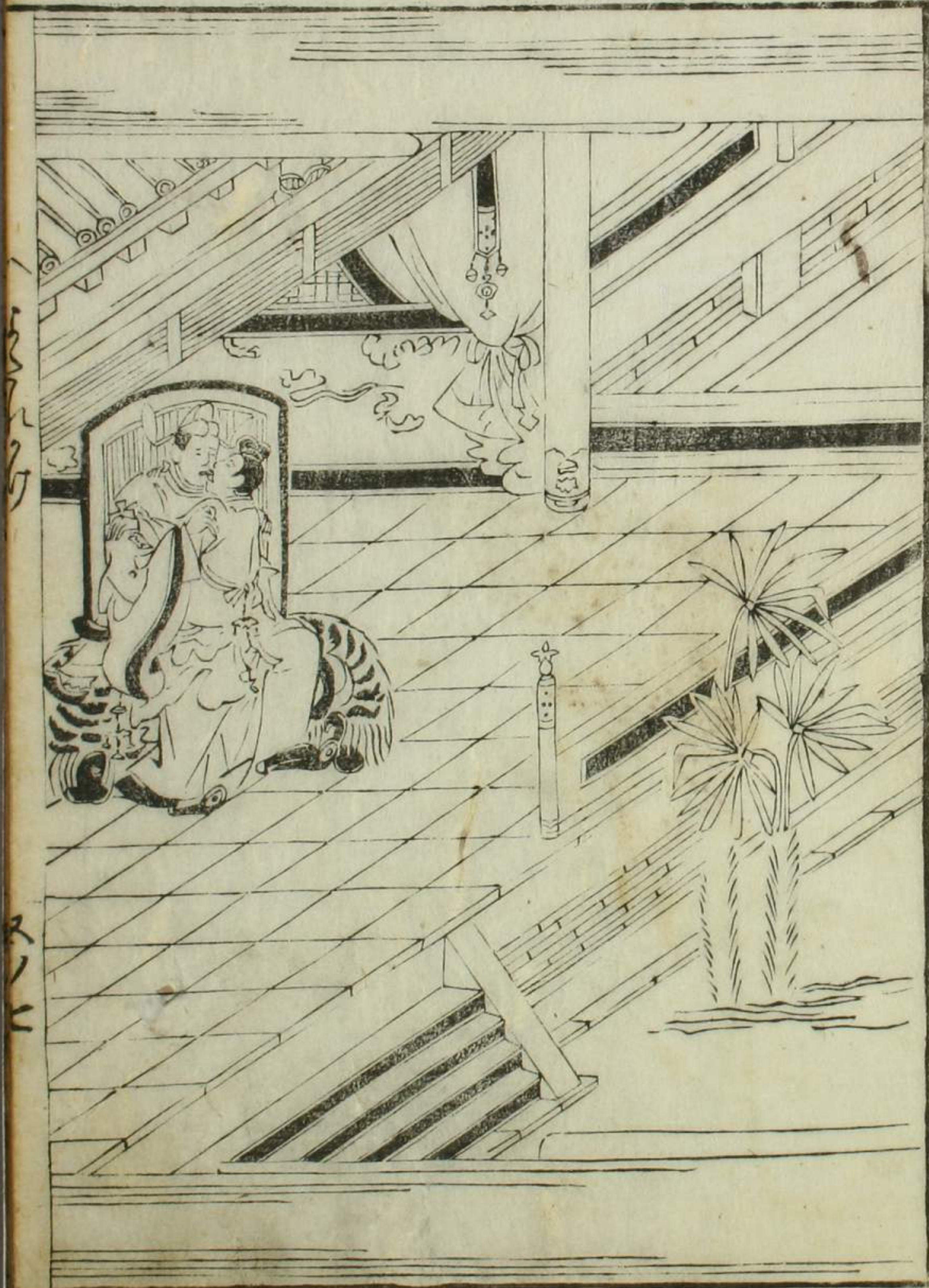
- 一 美流の金襴袈裟とさうりしもの
- 一 美流の白粉紅粉とけりしもの
- 一 美流の白粉紅粉の着のりもの
- 一 美流の白粉紅粉の着のりもの
- 一 わーい念仏のいしー光のり
- 一 美流の舞妓のり
- 一 美流の美者のり

よきつけ 男色二倫書

けりしわがれ人のらとさうりしと浮きうらうらと。
 内瓢葦の破とあひめておろしとさうり念仏のり
 つまらし。わきて悔しと念仏の度とあひに浮き
 つたむらりこりて様さむ人の老とむら老と
 甲老の味日よ誰とわびらあつねとまされ
 と。一秋のつとそとそ人のらとさうりしとさうり
 かのり。むびらうらうらお涙のまさとさうり
 のの萌あつまの子粒の救とさうりぬとさうり
 あも燃燈のさうり切とさうりてふい年とわさうり

もとん糸のてん皮の畜教うりとしりしめ糸ひきり
後まきと眩と曲うめて織とるせり。されど鄙俗の
詞よ成とまくおどろあつまぐとらよ詞のまうらとらひ
らりせり。わらひ人の膝を曲て織とせ。あひな
どして。わらぬ男色の曲織とらひけり。わらひのまきとら
らりの男根と結て織とら。津ま。如留陀夷佛の胸
らけり。とりて採織ひせり。とらわりの世傳とせ。とら
らひ。ぶらり。どのせり。とらとら。氣の眩元。一織
とら。道をけり。どまら。きれ。つて。いみ。ら。ま。く。度。ま
ら。きれ。じ。織。と。ら。の。料。と。奉。給。り。一。ま。め。の。め。ら。

後董と不津とら。じりの料。とら。んと。辛。若。せ。り
じりの料。とら。じ。ら。い。み。ら。は。深。然。し。ゆ。ら。ぶ。ら
と。の。あ。ら。細。と。玉。の。結。と。織。と。ら。め。人。は。結。ま。そ。
せ。れ。と。つ。ら。芳。蔭。の。分。り。ひ。ま。う。け。大。賢。五。經
の。い。ま。し。め。一。放。ら。ふ。と。ら。り。歌。合。ひ。す。れ。ど。ま。の。味。ひ
と。ら。と。ど。十。月。の。み。ら。め。ふ。事。り。十。日。の。ゆ。び。さ。り
あ。ん。も。あ。れ。き。り。と。そ。織。め。と。糸。漢。之。如。道。球。紙
弟。中。と。い。ま。し。め。糸。ひ。かり。羅。漢。ハ。不。織。め。と。そ。二。年。歳
の。う。ら。の。織。と。ら。の。葉。と。販。せ。り。と。一。月。ふ。六。夜。り
織。と。一。月。ふ。六。夜。り。洗。せ。給。り。い。ま。六。夜。と。ら。あ。ら。六。夜。り。



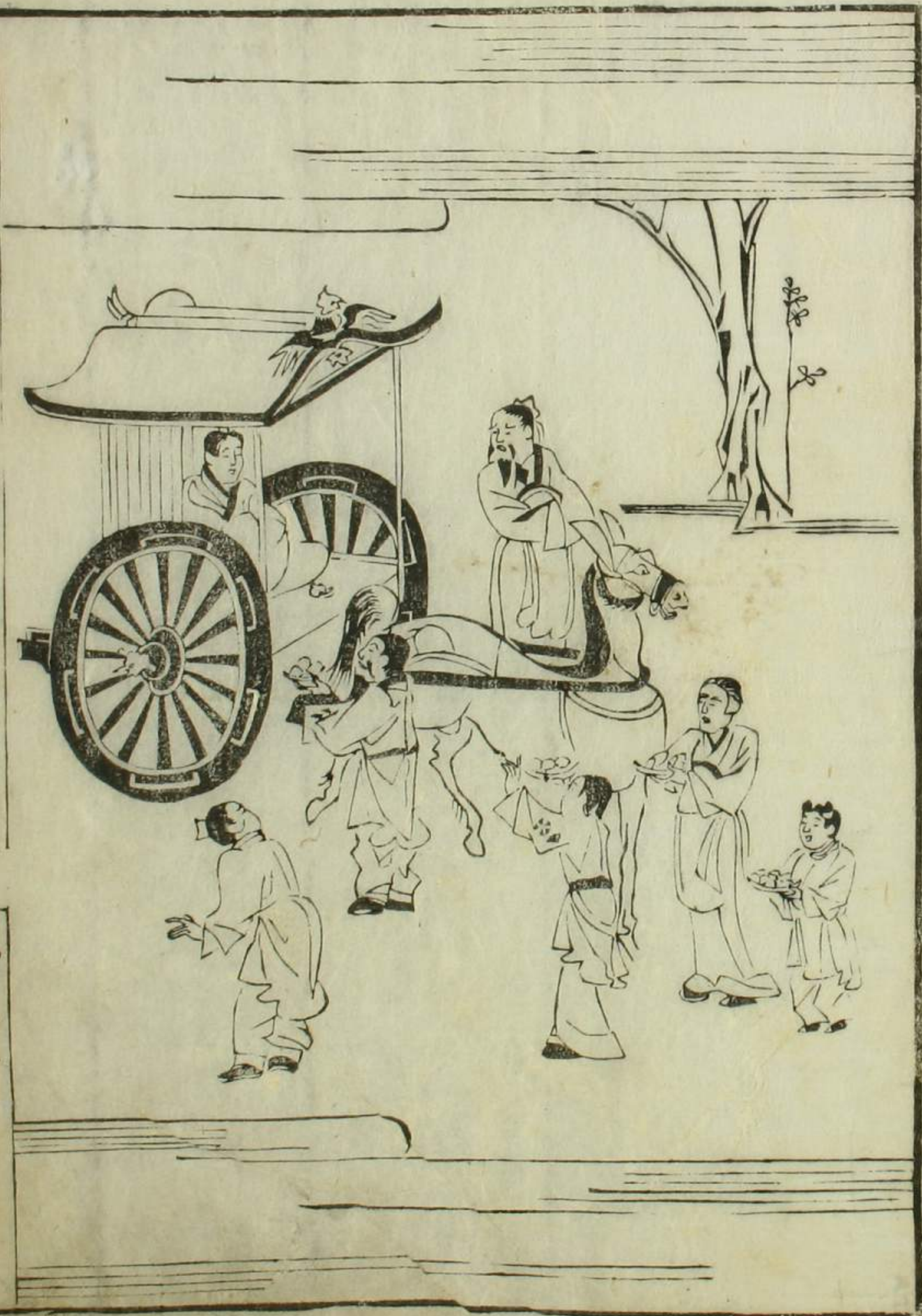
ナハ目と一月とすりやゆへり。辛酉より甲子の歳
て二月はあなみして。辛酉とて。辛酉とて。辛酉とて
一なり。婿りきり。病はるがゆへり。男
色わつものよ。之實の加護わり。六悲華
經も。流せ。ゆへり。罪道と。なづき。いふつ
る。詞を。わめり。又。勢の。流。茨。り。を
い。み。ち。と。唐。湖。廣。道。よ。裁。尾。と。の。ひ。支。那。と。大。神。龍。
ぞ。り。ひ。一。甲。綱。め。も。じ。り。一。若。道。と。の。ひ。中。ご。り。の。ま。
量。と。り。ひ。凶。氏。ハ。主。道。と。書。と。り。り。男。道。ハ。み。ち。と。書。と。
す。り。あ。り。て。ま。た。と。と。り。あ。り。

の枕者の那は。流。と。の。ひ。ま。の。ひ。み。かん。と。書。と。
そ。み。ち。と。り。ひ。凶。氏。ハ。主。道。と。書。と。り。り。男。道。ハ。み。ち。と。書。と。
す。り。あ。り。て。ま。た。と。と。り。あ。り。
の。枕。者。の。那。は。流。と。の。ひ。ま。の。ひ。み。かん。と。書。と。
そ。み。ち。と。り。ひ。凶。氏。ハ。主。道。と。書。と。り。り。男。道。ハ。み。ち。と。書。と。
す。り。あ。り。て。ま。た。と。と。り。あ。り。
の。枕。者。の。那。は。流。と。の。ひ。ま。の。ひ。み。かん。と。書。と。
そ。み。ち。と。り。ひ。凶。氏。ハ。主。道。と。書。と。り。り。男。道。ハ。み。ち。と。書。と。
す。り。あ。り。て。ま。た。と。と。り。あ。り。

今の世までも他人にたはるれ。周の時よは、宗朝とらふ。あふ
うえそ。宿白うけりて。母の都をゆめ。外
宗朝がみの孔子も。ゆめをゆめ。鄭の蔣公のわかれ
よ子都とゆ。づをゆめ。つとあふん。天下の月あひ
きれ。どうり。衛の靈公の孫子瑕。よまふ。ひて。孔子ありや
し。まら。中朝。安寧。うたふ。この時よ。わかれ。魏の哀
帝。ハ。毫湯。君。よ。わが。れて。解州。と。ゆ。て。漢の。う。程
の。う。く。ひ。さ。あ。つ。も。蔣。孺。あ。あ。ひ。て。ひ。休。ま。ご。と。た。あ。が
し。が。ひ。て。び。び。う。ち。あ。の。政。と。あ。つ。り。惠。帝。ハ。因。孺。が。あ
ら。い。ま。り。ぞ。胡。文。ゆ。め。あ。ま。記。う。し。ら。げ。さ。衆。さ。の。あ。あ。め

つ。あ。あ。う。そ。そ。ゆ。う。い。故。く。の。洞。堂。よ。み。へ。う。り。漢。の。文
帝。ハ。鄧。通。よ。た。ま。し。ひ。とう。ま。な。れ。哀。帝。ハ。董。賢。よ
あ。あ。も。ゆ。め。り。づ。ん。あ。あ。さ。づ。あ。な。れ。を。と。そ。び。り。ん。め
細。の。目。よ。わ。せ。り。ま。な。れ。を。こ。り。び。と。り。て。白。み。つ。ぎ。さ
わ。き。を。せ。ゆ。め。を。わ。り。時。董。賢。ハ。帝。の。袖。と。の。あ。そ。ひ。の
糸。し。の。り。に。董。賢。が。目。れ。さ。め。ん。よ。と。帝。ゆ。く。が
し。ゆ。め。の。袖。と。さ。り。て。せ。さ。さ。を。ゆ。め。ひ。と。ま。り。氏。族
棟。韻。と。そ。ま。る。ぐ。哀。帝。の。左。右。と。も。け。り。と。ゆ。め。と。く。
寤。心。の。あ。ら。う。し。め。た。七。と。せ。れ。わ。ら。さ。り。と。誰。想。ふ
人。書。よ。な。さ。り。董。賢。が。一。族。の。張。禹。が。永。杜。欽。の。う。り。

のしやぞびあふのりさつひよりまて世の人あはれ
 ぬせしむらゝとらるゝ調^{てう}吹^ふまはるるをり韓^{かん}嫪^{らう}李^り延^{えん}の
 ざらこゝ言^{こと}あまりののりよめたわらふ^{たわら}ま^まの
 美^み賢^{けん}よりともせらり何^{なに}年^{ねん}叔^{しやく}がわせの粉^{こな}もちも白^{しろ}飯^いな
 り餅^{もち}の試^{こころ}しむごやらり潘^{はん}安^{あん}仁^{にん}が車^{くるま}のこゝみちのせ
 ころ^{ころ}菓^かのためしむわり



上
 下

一
 二

きのくもついつつおうつれど再會とよの年のまゝ
 らざらしてあつくまじられたる後の猶更のまゝ
 とりつれがくびつどのおやみおのいぬかき
 ちやれとこの年月とまらしきしきしきしきしき
 此れ先づあひひそが年おのいぬかき
 して我がひらひらあひひらあひひらあひひら
 ころして
 去年今日此門中人面桃花咲春風とほら
 める。宿儺のつとめられぬとあひひらあひひら
 びてくまらあひひら

去年のまらあひひらあひひらあひひら
 くのうらのあひひらあひひら
 まいあひひらあひひらあひひらあひひら
 ちやれとこの年月とまらしきしきしきしき
 此れ先づあひひらあひひらあひひらあひひら
 して我がひらひらあひひらあひひらあひひら
 ころして

去年今日

宿儺



又一体いつたいわわるるももいいみみららよよののわわりり〜
 庭への艶詩えんしともともあありり〜又一体いつたいののままりり〜
 中なかに

大聖だいせい又また瓊じゆ初はつ活かつ開かい金剛こんがう弘法くわうぼう再さい興きやう本ほんととあありり

をを弘くわう法ぼうのの所しよににいいづいちちのの中ちゆう興きやう山さんととややいいりりんんままとと志し

ららとといい〜又また河か川せん相さう國こく唐たう橋きやう中ちゆうのの色しきみみかかみみ男おとこ

このこの〜ののままりり〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜

聖せいのの外がいのの詔みことまこと〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜

更さらのの法ぼうをを奉ほうてて色しき外がいのの詔みことまこととといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜

ははくくいい道みちののううららんんとといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜

唐たうののとといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜とといいふふ〜

大親だいしん菩薩ぼさつ

大親だいしん菩薩ぼさつ

こそしおろしひくろもらまぐさじ藤のりや藤のり
 おどよそしらうとらんちも月さむらつられ藤
 ありがうとんたくおひのち中しと年月終て
 まく終ぬおひひまあうわうしと藤よさそそ
 と年らうとつおさんまのよ藤のまらうらあぐ
 し藤しとまもひのあ事に終終して
 しとらうそひおひとまらう年の月終て入そ
 からまらうとんまらうびつらん目まのぞの湯乃
 うららとんらうらう暗部のふとものこつひ
 むらんちと終しんよ仲らうらまらうらあ終て

とうくまらうらあくおらんともらふんの
 まく藤しとすくわつらまらうひひとそま
 くじらまらうとらあ藤のらうらうらてを津
 おゆさあわれわらあてんれとんらうらあわ
 つれまもまがゆらとらうらまらうまらう千
 わあてあうらうらとらあてんらうらあわ
 むとそとそつとらの藤とあひとまらうらあ
 ぶび昌黎杜牧が嗜聴とぶふらあせうみちあれ
 をみらうらうらとらあ終て



